

平成31年2月12日

松阪市議会  
中島清晴議長 様

議員 海住恒幸

## 研修参加報告

- 実施日 平成31年1月30日（水）午後1時20分～午後5時30分
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
（東京都渋谷区代々木神園町）
- 講座名 第30回全国公民館セミナー
- 講師 牧野篤（東京大学教育学部教授）ほか
- 主催 公益社団法人全国公民館連合会

### 記

本セミナーは、本来、都道府県の公民館連合会から推薦のあった公民館職員等に参加が認められるセミナー（1月30日～2月1日までの3日間）ですが、見学ということで事前に主催者の許可を得て初日のみ参加してきました。

#### 1月30日プログラム

- 午後1時20分～午後3時30分

トークセッション（×対談 牧野教授）

テーマ1 「もっと人が集まる公民館を！」（出野紀子・コミュニティデザイナー）

テーマ2 「公民館のグローバル化」（南信之介・那覇市繁多川公民館長）

テーマ3 「これからの公民館のありかた」（中野理美・文部科学省地域学習推進課長）

- 午後4時～午後5時30分

集中講義1「公民館を地域づくりの基盤に」（前編）（講師・牧野教授）

#### 内容

##### 1, トークセッション

テーマ1の「もっと人が集まる公民館を！」では、「Co-Minkan」普及実行委員会を立ち上げた出野さんの報告。「Co-Minkan」というと、民間との協働のように受け取

れるが、公設ではなく私設の公民館をつくろうという運動である。地域の空き家等を活用し、だれでも利用できる場づくりを広めている。既存の公民館に中高生を呼ぶような魅力はないと感じて始めた活動となっている。「公民館のグローバル化」という南信之介・那覇市繁多川公民館長は、那覇市の公立公民館を NPO 法人として指定管理者となり運営している。地域の文化を掘り起こすことで世代をまたいで地域を誇る気持ちをつなぎ、高校生を含む住民のチームをつくり、地域課題の解決に取り組んでいる（独居高齢者生活支援）。また、ネット中継でエジプトと交流し、日本の公民館の意義を伝え、エジプトに設立できないか、現地と交流を図っている。管轄官庁の立場から「これからの公民館のありかた」を問うた中野理美・文部科学省地域学習推進課長は、「いままでの公民館の利用者は、非常に限られた人による、たこつぼの中をつながりだったのではないか」として、社会的に孤立しがちな人を含め、より多くの住民が主体的にかかわれるきっかけづくりを提起した。さらには、公民館の現状としては館そのものが減少傾向にあるうえ、主催事業の減少、利用者の固定化が見受けられるのではないかとし、地域づくりにつなげていく拠点化を得目指していくべきではないかとした。

## 2, 集中講義「公民館を地域づくりの基盤に」

公民館が存在し活動する意味を問う内容である。公民館は、個人的な知識、技能の習得や趣味・娯楽の生涯学習の場ではなく、個人と行政のはざままで解決できない課題解決にあたる住民力を身につける教育（社会教育）を行う場である。

## 3, 所感

この研修に参加した理由は、松阪市において検討されている住民協議会と自治会についての整理の中で公民館の位置づけがなく、今後どのような展開が図られていくかを見るうえで、公民館の活動の本来の姿を理解しておきたいと考えたためである。本来であれば、昼夜3日間のスケジュールをすべて参加し、実際、公民館で働いている職員らとの意見交換の場にも加わりたかったが、こちらの都合で初日だけに終わったことが大変残念である。ただ、限られた時間であっても、わたしたちが知っている公民館の運営と、さまざま試行、模索されている全国の公民館とでは相当な違いがあるようだ。指定管理者に管理運営を委託されている公民館も多いようなので、いくつかの事例を実際に見てみる必要もあるように思う。今後さらなる事例の把握と、方向について可能性を探ってみたい。

以上